

(9) 四 国



四国地域では、景気は持ち直しが緩やかになっている。

- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

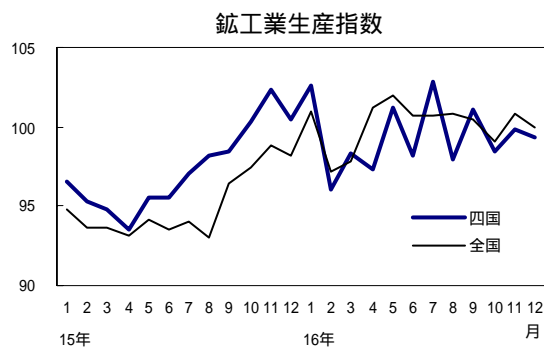
前回調査からの主要変更点

| | 前回（平成 16 年 11 月） | 今回（平成 17 年 2 月） | |
|-------|----------------------------|---------------------------------|--|
| 景況判断 | 持ち直している | 持ち直しが緩やかになっている | |
| 鉱工業生産 | 緩やかに増加 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている | 依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、新聞巻取紙や板紙が増加したものの、雑種紙や印刷用紙が減少したため、全体ではおおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、冷凍調理食品やレトルト食品が増加したものの、清涼飲料や削り節が減少したことから、全体では減少している。電気機械は、集積回路が前期の反動で増加したものの、外部記憶装置が減少し、開閉制御装置も前期の反動で減少したことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。化学は、医薬品が前期の反動で減少し、電子部品用の樹脂原料も定期修理の時期の関係で減少したため、減少している。一般機械は、半導体製造装置が前期の反動で減少し、需要の伸び悩みによって化学繊維機械も減少したことから、3 四半期ぶりに減少している。



(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。
2. 平成 16 年 12 月の四国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|---------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| | | 7～9 月期 | 10～12 月期 | 10～12 月期 | 10～12 月期 |
| パルプ・紙 | 13.3 | 1.4 | 0.7 | 0.8 | 1.9 |
| 食料品・たばこ | 13.3 | 1.7 | 1.9 | 2.9 | 21.5 |
| 電気機械 | 12.8 | 7.1 | 0.8 | 2.6 | 0.2 |
| 化学 | 12.7 | 7.5 | 7.3 | 7.7 | 3.6 |
| 一般機械 | 11.3 | 7.6 | 9.2 | 3.2 | 18.1 |
| 鉱工業 | 100.0 | 1.8 | 1.5 | 1.0 | 3.2 |

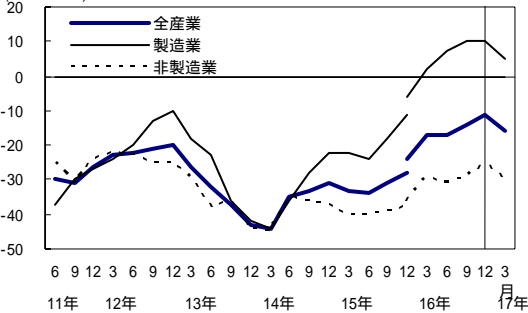
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2. 10～12 月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

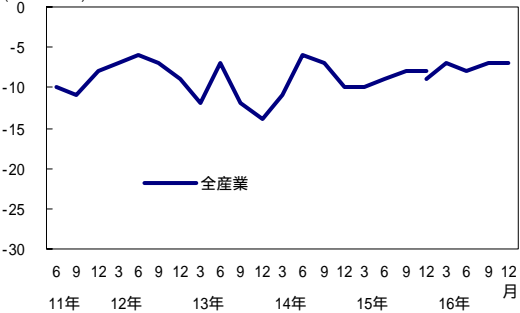
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



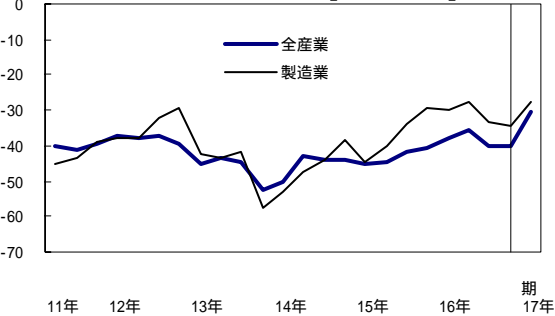
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]

「取引先の集金状況がいまだに悪く、資金繰りの良くない状況が続いている。また、資産表等から判断すると、売上も利益も伸びていない企業がほとんどで、依然、景気は良くない(公認会計士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

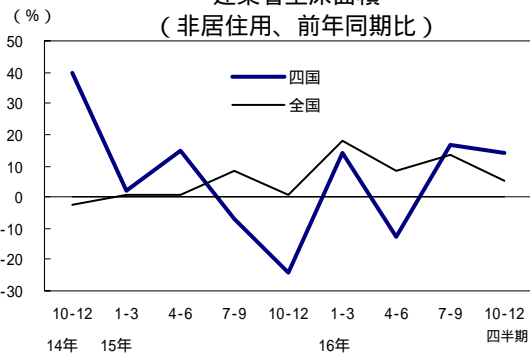
(3) 16年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]

| | (前年度比、 %) | |
|------|-------------|-------------|
| | 15年度実績 | 16年度計画 |
| 全産業 | 6.6 | 2.8[10.1] |
| 製造業 | 4.8 | 11.7[5.7] |
| 非製造業 | 7.7 | 12.3[20.4] |

(備考)[]は前回(9月)調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

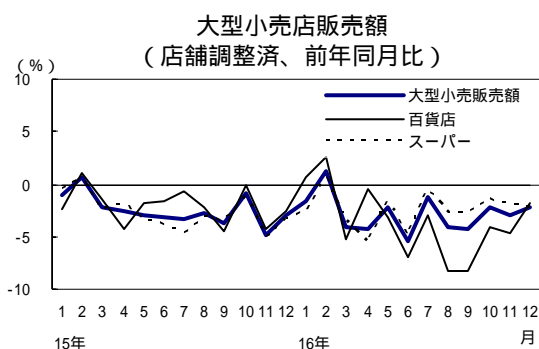
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、催事の好調などから飲食料品が前年を上回ったが、気温の高さによる衣料品の不振と、台風による入店客数の減少などから前年を下回った。11月は、引き続き気温が高く推移したため衣料品が不振であり、前年を下回った。12月は、クリスマス商戦の健闘などから身の回り品が前年を上回ったが、気温の高さから冬物商品が全般に不調であり、10か月連続して前年を下回った。

スーパーは、全般に気温が高めに推移したことから衣料品を中心とした冬物商品が不振であり、競合店の影響などにより「その他の商品」が低調であったため、10か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「人の動きは、若干良くなってきているが、単価が依然として下がっており、売上自体は変わらない。単価と人の動きには負の相関関係がある(都市型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

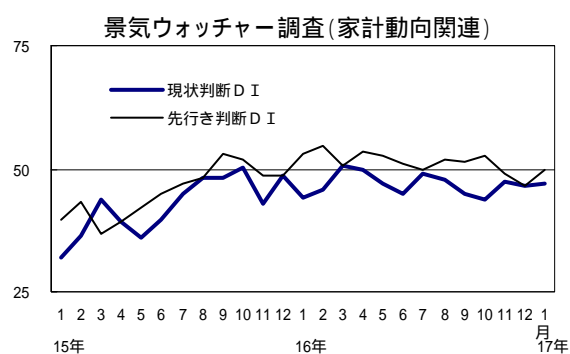
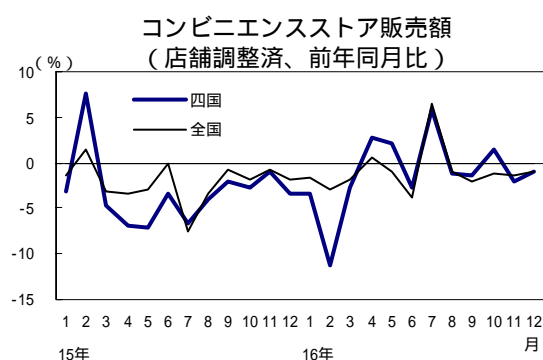


(前年同期比、%)

| | 16年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 |
|----------|---------|------|------|--------|
| 大型小売店 | 1.7 | 3.9 | 3.2 | 2.4 |
| 百貨店 | 1.0 | 3.5 | 6.0 | 3.3 |
| スーパー | 2.0 | 4.1 | 2.0 | 1.9 |
| コンビニ | 5.8 | 0.7 | 0.9 | 0.5 |
| 景気ウォッチャー | 46.9 | 47.2 | 47.2 | 45.9 |

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

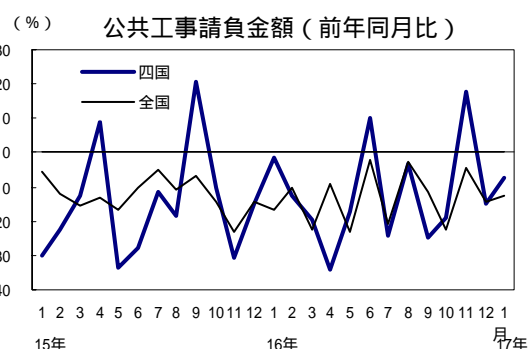
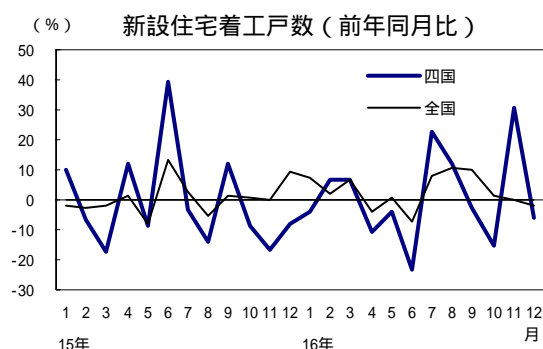
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

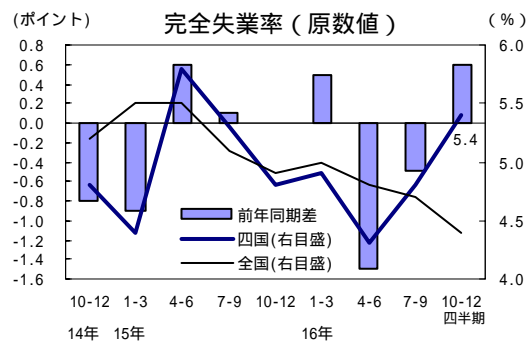
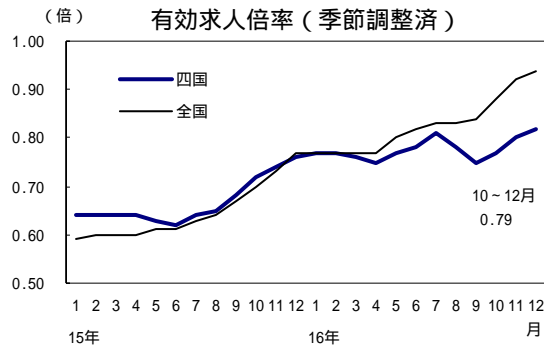
貸家、給与が前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

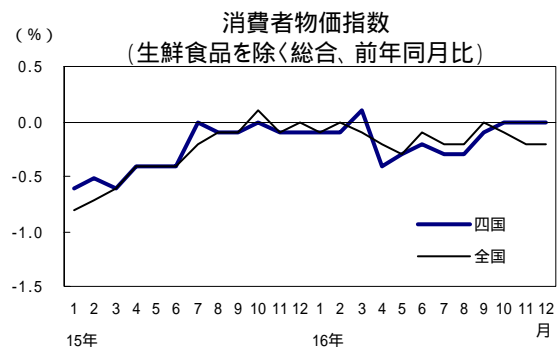
「求人自体は相変わらず微増を続けているが、派遣、業務請負等の求人によるものであり、正社員の求人数は横ばいで推移している (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

- (3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|------|------|--------|-------|
| | 16年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 17年1月 |
| 倒産件数 | 106 | 90 | 92 | 94 | 25 |
| (前年比) | 12.4 | 39.6 | 20.0 | 5.6 | 10.7 |
| 負債総額 | 322 | 219 | 136 | 194 | 66 |
| (前年比) | 8.1 | 73.2 | 72.0 | 26.1 | 53.9 |



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・台風被害を受けていた青果物の出荷がほぼ回復してきたが、期待していた一般貨物の初荷の動きがさっぱりで、前年を大きく下回っている (輸送業)

<先行き>

- ・今後どのように変わるのか、様子見している状態であり、店舗投資とか、設備の手直しなどを行っている風はない (スナック)

